



デザイン資料より抜粋。天守に始まり多層櫓や石垣など豊富な景観を魅せると共に、水と緑の豊かな熊本ならではのライトアップが構築された(資料提供/大林組+内原智史デザイン事務所)

Designer's Comment

太陽や月の動きと連動した
天守閣にふさわしい光を表現

2016年に発生した熊本地震の復興のシンボルとして、21年3月に大天守および小天守が復旧工事を終え、同年8月に城郭景観照明が点灯を開始しました。幾重の歴史を刻んできた遺構は、熊本市民の大切な象徴として市民とのつながりをより深め、身近な存在として改めて感じるにふさわしい光のデザインが検討されました。今春に上梓された熊本市の夜間景観のマスタープランには、熊本城とその雄大な城郭を中心とした市街地全域を対象に、光の目指す姿がまとめられました。肥後の「火の国」に由来する、生活の中で培われた温かい炎の灯の色が街全体のベースの明かりとなり、涼しい光へのグラデーションを行き渡らせていく。その街の光の中心に、天守閣が存在するのです。

今回、天守閣と市民をつなぐ試みとして、時間によって変化させることで生活に寄り添う景観シーンがデザインされました。日の入り時の西日をイメージした光で点灯シーンが始まり、天守閣の低層から頂部への美しいグラデーションを描く特徴的な全点灯のシーンを経て、一日が終わる深夜に月光をイメージして頂部だけほんの少し青味を帯びさせたシーンで締めくく

ます。そして、景観照明では珍しく、夜明け前に東からの日の出をイメージした光が再点灯します。これは、日の出前の暗い時間帯から働く人々へのエールを光に込めたものです。今後20年を掛けて城郭全体の光の完成を目指すに当たり、クラウドプラットフォームによって、さまざまな場所や人の接点をつくり出すシステムが構築されました。特別な日には記念となる演出や点灯のセレモニーを提供し、ライティングをスマートフォンでコントロールできるなど、市民のためのさまざまな光の活かし方を可能にする先進性も持たせています。

(内原智史/内原智史デザイン事務所)

DATA

所在地:熊本市中央区本丸1-1
 工期:2021年2月17日～9月30日
 施工:不二電気工業
 制覇:カラキネティクス・ジャパン

営業内容

点灯開始日(リニューアル):2021年8月1日
 点灯時間:日の入り～午前0時、日の出時刻の60分前～日の出

電話:(096)328-2858
 発注者:熊本市文化市民局 熊本城総合事務所

主な仕上り材料

白色LED照明(Lumenbeam LBX Dynamic White /ルーメンジャパン) フルカラーLED照明(Lumenbeam LBX Color Changing /ルーメンジャパン)

1. 日の入りから午前0時、日の出時刻の60分前から日の出にかけて、四つのライトアップシーンが展開される。まず、日没からの1時間に設定された「夕日のシーン」では、城全体が温かな光に包まれる
2. 午後11時までの「全灯シーン」は、上部に2700～6500 K、下部に2200～3000 Kの光が照射される。マスタープランでは、涼しい光から温かい光へとグラデーションを描きながら、街全体に広がっていくことをイメージした
3. 午後11時15分から午前0時にかけては、月明かりによって天守閣の一部が照らし出される様子の「月光のシーン」を表現。下部は暗闇に包まれている
4. 日の出時刻の60分前からは再び点灯し、太陽によって下部から照らし出される様子の「朝日のシーン」を展開する。早朝から働く人々へのエールを込めた